

学修行動・成果アンケートについて

学長室 教務委員会

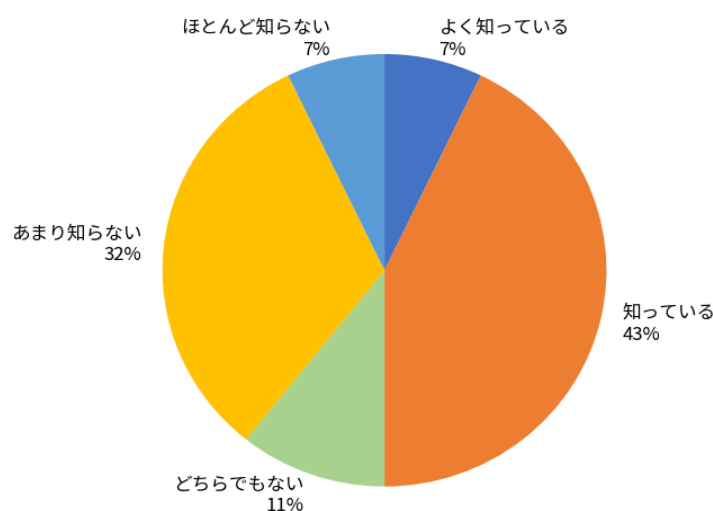
高千穂大学では、学長室・教務委員会の共同事業として在学生を対象とした学修行動・学修成果に関するアンケート調査を実施しております。2022 年度から始まった調査で継続的に実施されることで、高千穂大学での学びの状況についてアンケート調査を用いて、全学的な状況を明らかにするものとなっています。

2026 年度は授業に慣れてきた 4 月中旬から 5 月下旬にかけて実施いたしました。Google フォームを用いたオンラインで調査を行い、28 名からの回答を得ました。

本アンケートは大学の学風の指針、目標についての理解、学修行動（出席状況、取り組み）、教養・専門知識、スタディスキル、社会人基礎力について問うております。それぞれの結果については以下の通りです。

2 年生（2025 年入学生）

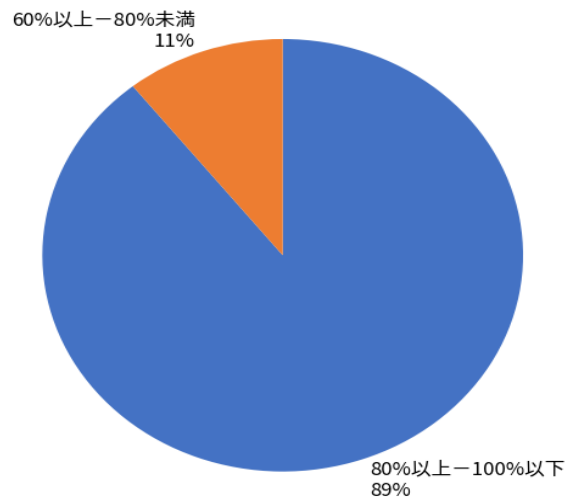
1. 高千穂大学の「学風の指針」「学風の目標」について知っていますか。



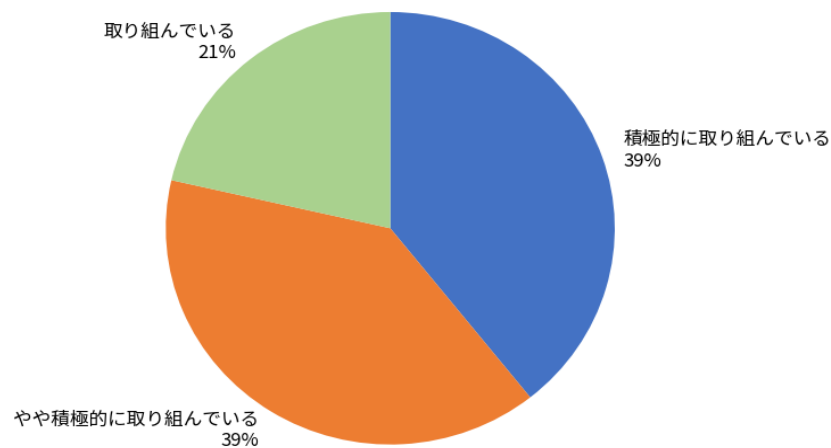
コメント:

「よく知っている」「知っている」と回答した学生が 50%となっており、半数の学生が本学の学風の指針と学風の目標を理解している状況にある。一方、「あまり知らない」（32%）の割合が比較的高く、2 年次においても継続的な周知・浸透の取り組みが必要である。今後も学内の各種媒体を通じて本学の教育理念の浸透を図る必要がある。

2. 授業に出席している割合はどのくらいですか。



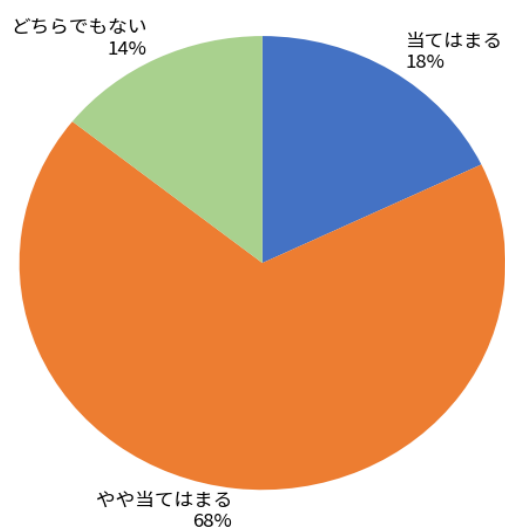
3. 授業に対して積極的に取り組んでいますか。



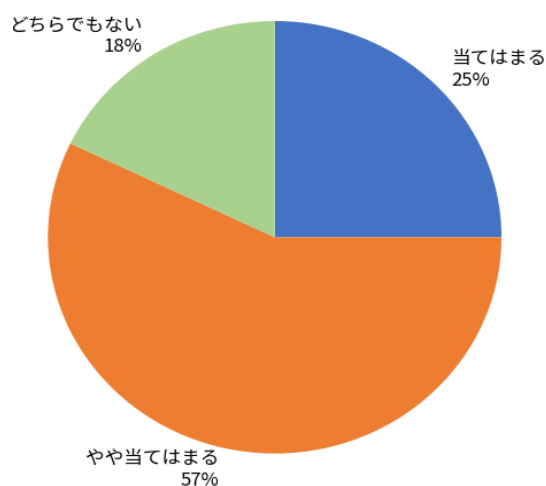
コメント:

授業への出席及び取り組みについては非常に良好な結果が得られている。出席率 80%以上の学生が 89%にのぼり、「積極的に取り組んでいる」「やや積極的に取り組んでいる」を合わせると 78%の学生が積極的に授業に参加している。これは、2 年生になり専門ゼミに入ることで、学生が授業での学びだけではなく予習・復習、またサブゼミなどの自主学習での学びに取り組んでいることによるものと推察できる。

4. 幅広い知識や教養を身につけている。



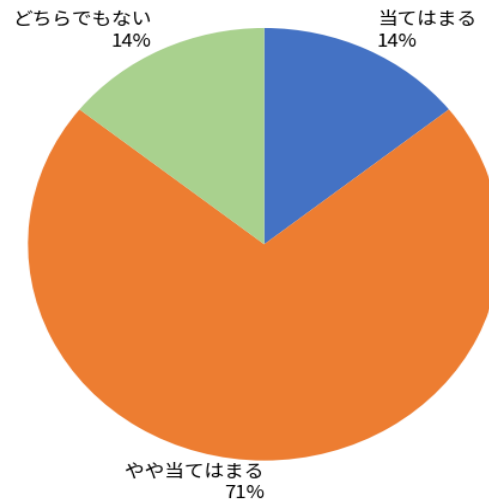
5. 学部・学科で学ぶ専門知識を身につけている。



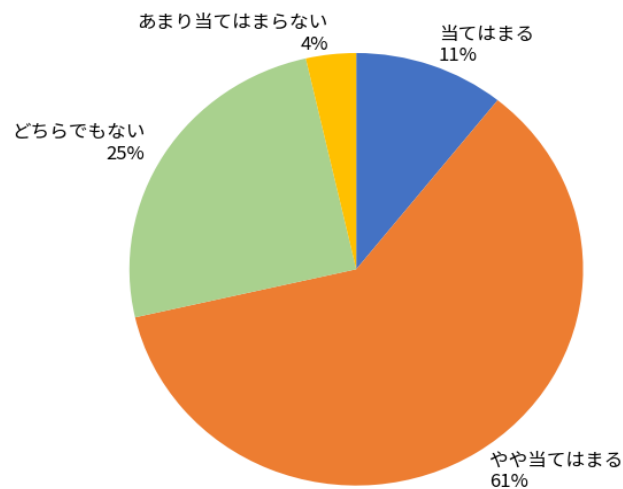
コメント:

教養知識については「当てはまる」(18%)と「やや当てはまる」(68%)を合わせると86%の学生が幅広い知識・教養を身につけていると回答している。専門知識についても「当てはまる」(25%)と「やや当てはまる」(57%)の合計が82%に達しており、1年次と比較して顕著な向上が見られる。本学では2年次からコース選択を通じた専門への転換が行われており、各学部で学ぶ専門知識が着実に身につけてきていることがうかがえる。

6. レポートの作成で必要となる情報収集技能を持っている



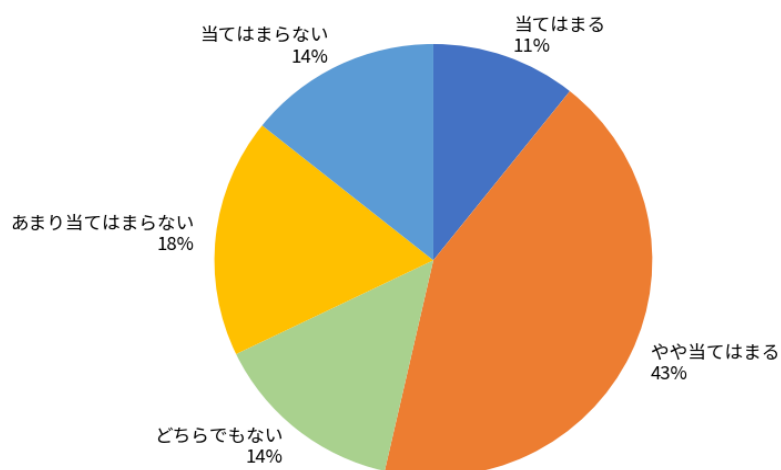
7. レポート作成に必要な文章作成技能を有している



コメント:

情報収集技能については「当てはまる」(14%)と「やや当てはまる」(71%)の合計が85%と高水準を示しており、1年次の58%から大幅に向上している。文章作成技能も「当てはまる」(11%)と「やや当てはまる」(61%)の合計が72%に達しており、1年次の50%から改善されている。1年次後半に実施される初年次ゼミでの学びや各講義で出される課題への取り組みが、高い学修成果としてあらわれていると考えていいだろう。

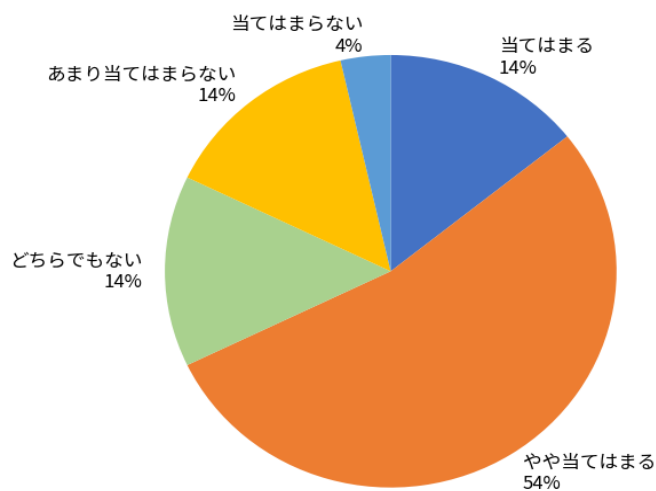
8. プレゼンテーション能力を有している



コメント:

プレゼンテーション能力については「当てはまる」(11%)と「やや当てはまる」(43%)の合計が54%となっており、1年次の38%から向上が見られる。「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計が32%と依然として課題は残るものの、1年次後期からのプレゼンテーション教育の成果が表れ始めていると言える。

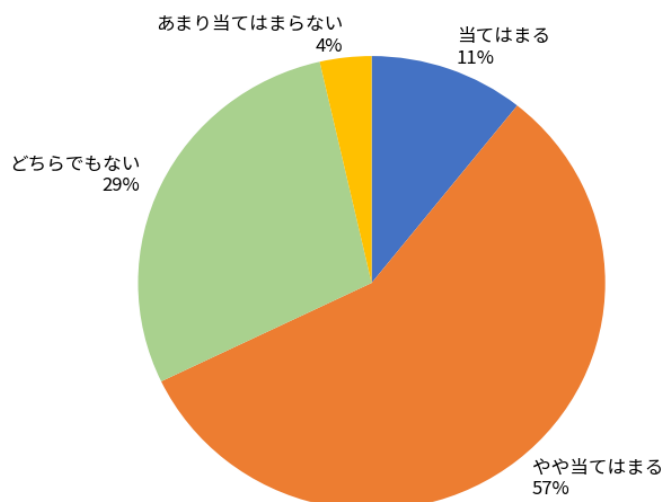
9. 前に踏み出す力が身についている



コメント:

「前に踏み出す力」については「当てはまる」(14%)と「やや当てはまる」(54%)の合計が68%であり、1年次の53%から向上が見られる。「あまり当てはまらない」「当てはまらない」を合わせると18%にとどまっており、大学生活を通じた主体性の涵養が着実に進んでいることを示している。

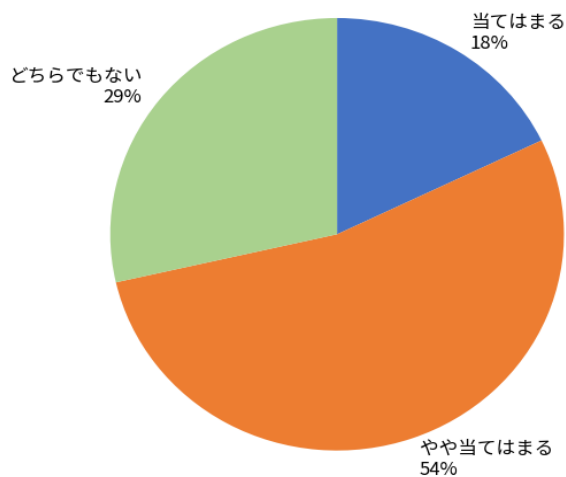
10. 考え抜く力が身に付いている



コメント:

「考え抜く力」については「当てはまる」(11%)と「やや当てはまる」(57%)の合計が68%となっており、1年次の67%と同水準を維持している。「どちらでもない」が29%と比較的高く、専門ゼミや課題への取り組みを通じた思考力の更なる深化が期待される。

11. チームで働く力が身についている



コメント:

「チームで働く力」については「当てはまる」(18%)と「やや当てはまる」(54%)の合計が72%となっており、1年次の70%と同水準を維持している。対面での講義やゼミ活動への継続的な参加が、チームワーク力の定着に寄与していると考えられる。

以上